

2日 火曜

列王Ⅱ

6:15 神の人の召使いが、朝早く起きて外に出ると、なんと、馬と戦車の軍隊がその町を包囲していた。若者がエリシャに、「ああ、ご主人様。どうしたらよいのでしょうか」と言った。

6:16 すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから」と言った。

6:17 そして、エリシャは祈って【主】に願った。「どうか、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」【主】がその若者の目を開かれたので、彼が見ると、なんと、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。

6:18 アラム人がエリシャに向かって下って来たとき、彼は【主】に祈って言った。「どうか、この民を打って目をくらませてください。」そこで主はエリシャのことばのとおり、彼らを打って目をくらまされた。

6:19 エリシャは彼らに言った。「こちらの道でもない。あちらの町でもない。私について来なさい。あなたがたの捜している人のところへ連れて行ってあげよう。」こうして、彼らをサマリアへ連れて行った。

6:20 彼らがサマリアに着くと、エリシャは言った。「【主】よ、この者たちの目を開いて、見えるようにしてください。」【主】が彼らの目を開き、彼らが見ると、なんと、自分たちはサマリアの真ん中に来ていた。

6:21 イスラエルの王は彼らを見て、エリシャに言った。「私が打ち殺しましょうか。私が打ち殺しましょうか。わが父よ。」

6:22 エリシャは言った。「打ち殺してはなり



ません。あなたは、捕虜にした者を自分の剣と弓で打ち殺しますか。彼らにパンと水を与え、食べたり飲んだりさせて、彼らの主君のもとに行かせなさい。」

6:23 そこで、王は彼らのために盛大なもてなしをして、彼らが食べたり飲んだりした後、彼らを帰した。こうして彼らは自分たちの主君のもとに戻って行った。それ以来、アラムの略奪隊は二度とイスラエルの地に侵入しなかった。

アラムの大群に包囲された預言者学校の「若い者」は動揺しましたが、エリシャが祈ると神の大群が山に満ちているのが分りました。これこそが信仰者の力です。私たちが恐れ絶望しているときにも、主の力はその敵や困難よりもはるかに大きいのです。主の勝利はぎりぎりのものではなく、勝ち得て余りあるものです。

エリシャにとってこの勝利は、相手を苦しめて優越感を味わうためのものでも、大打撃を与えて英雄になるためのものでもありません。ただ主のみこころを行うためであり、主の民に平和が与えられるためでした。

ですから報復の連鎖を続けるような復習ではなく、「彼らを飲み食いさせて…帰した」のです。結局、彼らは「二度とイスラエルの地に侵入してこなかった」のでした。

主の力を信じて、恐れなくて堂々としていきましょう。主を信じるゆえに、寛容な心で主のみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

